

## 第 5 学年月組(算数科)の実践

### 1. 単元名 比べ方を考えよう (2)

### 2. 単元の目標

- 割合を用いて比較したり考察したりするよさに気付き、生活や学習に用いようとする。  
【関心・意欲・態度】
- 倍の見方をもとに、割合を考え、目的や場面に応じ数量の大きさの間の関係を割合でとらえることができる。  
【数学的な考え方】
- 数量の関係から割合や百分率、基準量、比較量を求めたり、資料の全体と部分などの関係を表す割合を円グラフや帯グラフに表したりすることができる。  
【技能】
- 割合や百分率、基準量、比較の求め方や、円グラフや帯グラフのかき方及び歩合の表し方を理解する。  
【知識・理解】

### 3. 学習活動について

#### (1) 児童について

(略)

#### (2) 教材について

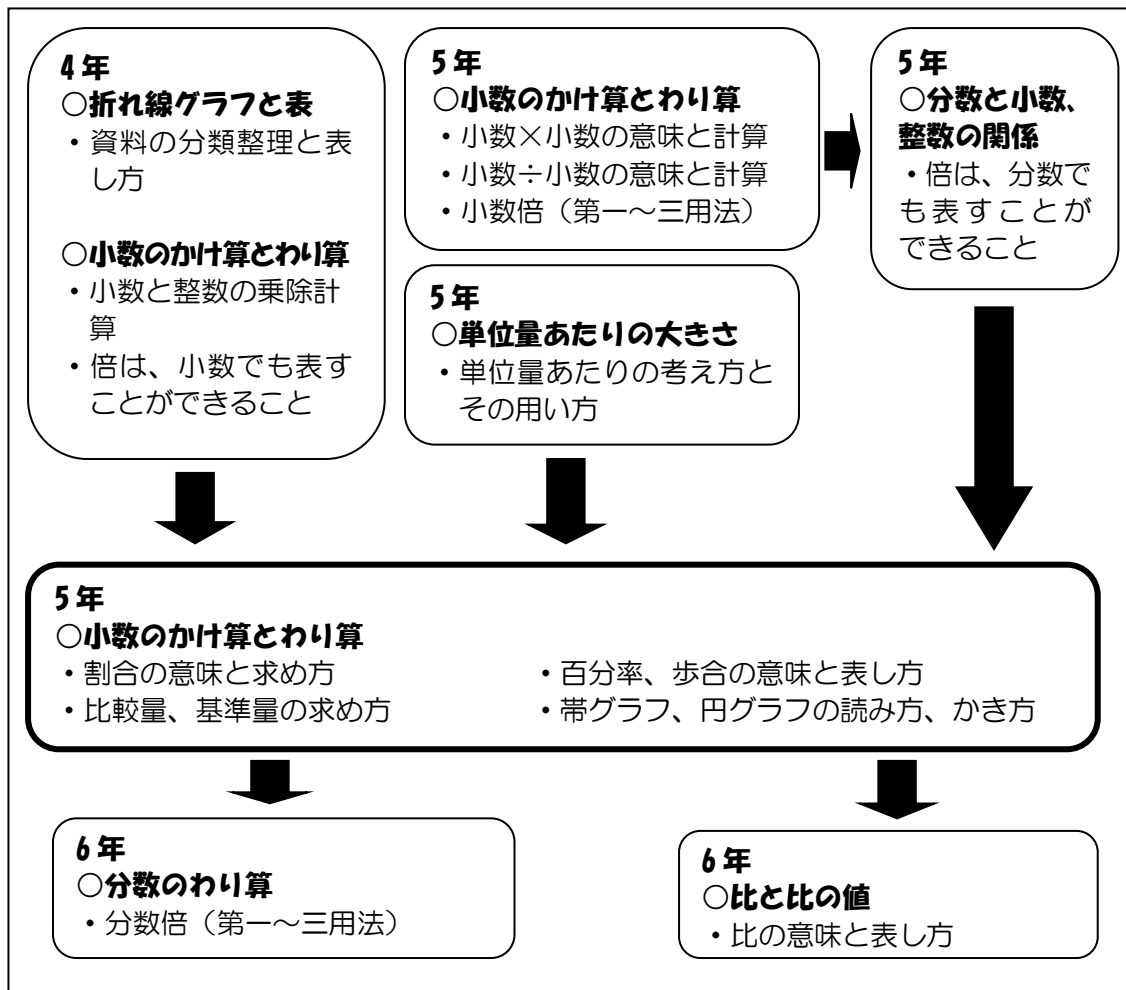
本単元は、学習指導要領第 5 学年 D 数量関係 (3)「百分率について理解できるようにする。」、(4)「目的に応じて資料を集めて分類し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。」を受けて設定したものである。第 4 学年では、対比する 2 量が整数の場合について、基準となる大きさを 1 とし、それに対する割合を 2.5 倍、2.3 倍などのように小数で表すことを学習してきた。対比する 2 量が小数の場合については、第 5 学年で学習してきている。また、倍を用いて 2 つの量を比較することも経験してきている。

本単元では、2 量の関係について、基にする量 (基準量) を 1 とみたとき、他方の量 (比較量) がどれだけにあたるのかというように、割合の見方を用いてとらえられるようにする。その上で、割合を表す 1 つの方法として百分率について学習する。小数で表されている割合をなるべく簡単な表し方で表すために、基準とする量の大きさを 100 とし、それに対する割合で表す方法が、百分率 (パーセント) である。百分率は、割合を整数で表すことで分かりやすいというよさに気付かせていく。また、百分率などと関連づけて、基準とする大きさを 10 とする歩合の表し方も知る。そして、基準とする大きさを 1、10、100 としたときの割合の表し方について、日常の事象と関連づけて整理していく。

割合は、児童にとってなじみにくく理解しにくい教材である。そこで、数直線を利用する。数直線に表すことにより、2 量のどちらを基準量とするのかをとらえやすくなるので、2 量の関係が把握しやすくなる。また、割合を求める演算を決定する手助けにもなる。

円グラフや帯グラフでは、百分率と関連させて、グラフのかき方とグラフからの読み取りについて学習する。全体と部分、部分と部分の関係を円グラフや帯グラフに表すことで、資料の特徴がとらえやすくなる。

また、既習のグラフを含め、あらためてそれぞれのグラフの特徴を価値づけていくことで、目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動を行い、生活や学習に用いようとする意欲を高めることをねらう。



(3) 指導にあたって  
 研究主題「思いや考えをもち、ともに学び合い、のびゆく子」に迫るために、以下の点に留意して指導する。

視点(1) 学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって学習に取り組めば、自分の思いや考えをもち、主体的に関わろうとする子が育つであろう。

- ① 教材・学習課題との出会いの場の工夫  
 本時の問題は「9900円の上着を、30%引きのねだんで買います。代金はいくらですか。」とする。店頭では、「0%引き」と書かれた商品がよく見られる。「0%引き」がつかくことで、どのくらい値段が安くなるのか考えることは児童の関心を引くと考える。  
 導入場面では、児童が題意をつかみやすいよう、課題提示の際に、上着の写真を書画カメラで提示する。また、30%引きの値札も提示することで、「30%引き」を使った課題であることを印象付けられるようにする。
- ② 学習課題、学習の流れの明確化  
 本時の導入では、問題を読んで思ったことや気付いたことをノートに書かせる。それをもとに、分からない言葉や表現を全体で確認し、題意をつかむことができるようにする。また、課題を解くために重要な言葉や数字（ポイント）を確認することで、課題解決の見通しをもつことができるようにする。  
 めあては児童が課題解決に向け、必然性をもって臨めるよう工夫する。課題提示の際に書かせた気付きや思いから、解決の見通しや学習のめあてを共有することができるようにする。

視点（２）子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

① 個人思考を深める手立てや位置づけの工夫

個人思考では、課題解決に向けて、試行錯誤する中で気付いたことやよく分からないことをメモしておき、自分の考えを整理したり、何に困っているかを確認したりできるようにする。そのため、ノートはメモを書くことができるスペースをとる。早く課題解決ができた児童はメモをもとに解決方法についての説明や課題解決に至る手順を考え、ノートにまとめる。また、課題解決できず、困っている児童は、メモをもとに、友達に教えてもらいたいことを自分から尋ねることができるようにしたい。学び合いの時間をしっかり取りたいので、個人思考の時間は短時間におさえる。

算数の学習では、にこにこサポートティーチャーがT2として授業に入っている。特に個別思考では、支援が必要なことを中心に、課題解決に向けての助言を行っている。本単元でも、前時までの振り返りをしながら、児童の課題解決に向かえるよう、関わってもらおう。

② ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫

思いや考えを表現する場の工夫として、学級のだれとでも教え合ったり、説明し合ったりし、学び合う時間を確保する。

課題解決ができた児童は、困っている児童にヒントを出したり、課題解決できた児童同士で説明し合ったりする。そのために、個人思考で考えた説明や手順を活用させる。説明することで、自分の考え整理したり、友達の意見を取り入れて修正したりすることで、理解を深めることができるようにする。

課題解決できずに困っている児童は、課題解決ができた児童からヒントをもらう。このとき、どこが分からないか、何に困っているのか聞くことができるようにするために、個人思考のときに書いたメモを活用させる。それにより、課題を明確にして、理解につなげることができるようにする。

学び合いの相手を見つけることができるように、ネームプレートを活用する。個人思考の間にネームプレートを配布しておき、学び合いで解決できた児童からホワイトボードに貼っていくことで、だれができたか分かるようにする。それにより、課題解決をした児童は、だれが困っているか見つけることができるようにする。また、課題の解決に至っていない児童は、誰に聞けばいいか分かるようにする。

この学び合う時間を設けることで、全員が課題の解を求める段階まで進むことができるようにする。次の全体発表につなげることができるように、学び合いの際の児童の発言やノートを確認しておく。特に、基準量、比較量、割合についての理解や立式、数直線などに着目し、児童の理解度を踏まえて、指名順を考えておく。

全体発表では、学び合いで説明まで至らなかった児童から意図的に指名する。また、課題解決に用いた数字や数直線についてのポイントを発言したり、ノートに書いたりしていた児童を指名することで、児童の考えを整理することができるようにする。

③ まとめによる振り返りの場の設定

学習内容をまとめる際、児童のノートをスクリーンに映し出したり、重要な箇所の色を変えて板書したりすることで、児童が本時のポイントを振り返ることができるようにする。これにより、児童が自身の考えを整理したり、学習内容を振り返ったりすることができるようにする。どのように書けばよいか悩む児童には、ノートを見直したり、板書を確認したりするように声がけをする。

本時の学習を振り返る際は、振り返りの視点として、「分かったこと」、「困ったこと」、「もっと知りたいこと」を挙げ、次時の学習につなげることができるようにする。

ICT 活用について

< デジタル教科書 >

課題の提示、新出の記号「%」（パーセント）の書き方などのとき、デジタル教科書を活用する。課題提示をするとき、拡大したり、必要のない部分を消したりすることで、課題を焦点化しやすい。また、新出の記号を学習するとき、アニメーション機能により書き方が視覚的に分かりやすく、繰り返し提示することで定着につながると考える。本単元で初めて出会う「円グラフ」や「帯グラフ」を学習するときも、デジタル教科書を使って示すことで、描き方や読み方の定着につながると考える。

<書画カメラ>

児童のノートを映したり、グラフを紹介したりするとき、書画カメラを活用する。児童のノートを映し、書いている内容を視覚的に示すことで、児童が説明をする手立てとして活用することができるようにする。説明するときは、スクリーンに投影された画像を使って説明する。これにより、学級の友達に向けて伝えようとする意識をもつことができるようにする。また、身の回りにある「円グラフ」や「帯グラフ」を映して紹介することで、今後の生活にいかそうとするのではないかと考える。

<タブレット>

写真を紹介したり、児童のノートを撮って比べたりするとき、タブレットを活用する。課題に関わる写真を提示することで、意欲的に課題に取り組むことができるようになる。また、児童が考えたことをいかして学習を進めるとき、児童のノートをタブレットで撮り、プロジェクターで映したり、他の児童のノートと比べたりすることで、共通点や相違点を見つけることができるようになる。

4.本単元で身につけたい力

資料における数量の比較や全体や部分の関係の考察などで割合を用いる場合があることや、その表し方についての百分率について理解するとともに、資料を円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

5.キャリア教育の視点

自分の意見を整理し、相手にわかりやすく伝える。(自己理解・自己管理能力)

6.指導計画と評価計画(全 12 時間 本時 6/12)

次	時	主な学習内容	評価				主な評価規準(評価方法)
			関心	考え	技能	知理	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バスケットボールのシュートの記録を見て、入った数とシュートした数の一方が同じであれば、比べられることに気付く。</li> <li>• 半分より入っているか入っていないかという見方を体験する。</li> <li>• 4試合のシュートの記録の比べ方を考える。</li> <li>• 各試合のシュートの入った割合を求める。</li> </ul>	○				関数量を比べるときに、差では妥当性に欠くことに気づき、倍の見方を用いてくらべようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 割合を求める式を考える。</li> <li>• 1を超える割合について考える。</li> </ul>		○	○		考数量を比べるときに全体を1とみて部分の大きさを表して比べる方法を考え、説明している。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 5年生の人数を基にした、サッカークラブに入っている人の割合を求める。</li> <li>• 「パーセント(%)」、「百分率」を知り、割合を百分率で表す。</li> <li>• 「算数のお話」を読み、「歩合」の意味と、「割」「分」「厘」が日常生活のなかで用いられていることを知る。</li> </ul>				○	知百分率や歩合による割合の表し方を理解している。
2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 果汁40%の1500mlの飲み物に含まれている果汁の量の求め方を考える。</li> <li>• 比較量を求める式をまとめる。</li> <li>• 割合を求める式と比較量を求</li> </ul>			○		技基準量と割合から比較量を求めることができる。

		める式を比べ、各量の関係を確認する。				
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間前に生まれた猫の今の体重 168g が生まれた直後の160%にあたる時、生まれた直後の猫の体重の求め方を考える。</li> <li>基準量を求める式をまとめる。</li> </ul>		○		<p>【考】基準量を求める式を導くのに、□を用いた比較量を求める式を基に考え、説明している。</p>
	6本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>9900円の上着を30%引きで買うときの、代金の求め方を考える。</li> </ul>		○		<p>【考】割引の場面で、ひかれる金額や割合に着目して解決の仕方を考え、説明している。</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>「力をつける問題」に取り組む。</li> </ul>			○	<p>【技】学習内容を適用して、問題を解決することができる。</p>
3	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別のみかんの収穫量の割合はどのように円グラフに表せばよいかを考える。</li> <li>「帯グラフ」「円グラフ」を知る。</li> <li>都道府県別のみかんの収穫量の帯グラフ、円グラフを読む。</li> </ul>			○	<p>【知】帯グラフ、円グラフの読み方を理解している。</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな教科の割合を百分率で求めて、それを帯グラフや円グラフに表す。</li> </ul>			○	<p>【技】帯グラフや円グラフをかくことができる。</p>
	10.	<ul style="list-style-type: none"> <li>東小と西小の好きな給食のメニューの割合や絶対量を読み取り、問題を解決する。</li> </ul>		○		<p>【考】割合の多少と絶対量の多少は、一致しないことに気づき、その理由を説明している。</p>
	11.12.	<ul style="list-style-type: none"> <li>「しあげ」に取り組む。</li> </ul>			○	<p>【知】基本的な学習内容を身につけている。</p>

## 7.本時の学習

### (1) 目標

割合の差を含む場面の、比較量の求め方について考え、説明することができる。  
【数学的な考え方】

### (2) 展開

時	学習活動と予想される児童の反応	T1の支援(○)・T2の支援(◎)・評価【 】・ICT活用
0	1. 問題を読み、題意をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">◎9900円の上着を、30%引きのねだんで買います。代金はいくらですか。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">○学習への意欲づけを図るために、問題に関する写真を見せる。(タブレット)</div>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>9900円はもとのねだん(もとにする量)だ。</li> <li>もとのねだんから30%引きされているんだ。</li> <li>どうすれば代金がかかるのかな。</li> <li>数直線を使えばできそうだ。</li> </ul> 2.めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">◎割引された代金の求め方をみつけ、説明しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を読んで思ったことや気付いたことをノートに書かせることで、題意をつかむことができるようにする。</li> <li>○ノートに書いた気づきを発表させることで題意を共有することができるようにする。</li> <li>○児童の思いや気づきからめあてにつなげることで、問題解決への意欲をもつことができるようにする。</li> <li>○前時までの学習を掲示することで、学習してきたことを振り返ることができるようにする。</li> </ul>

8	<p>3.どうすれば代金を求められるか考え、解く。 (個人思考)</p> <p>4.代金の求め方を友達と説明し合う。 (集団思考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数直線で表すと、9900円より、代金のほうが小さくなるね。</li> <li>9900円の30%だから2970円だ。 (<math>9900 \times 0.3 = 2970</math>) →誤答</li> <li>30%引きってことは2970円を引くのかな。 (① <math>9900 \times 0.3 = 2970</math> <math>9900 - 2970 = 6930</math>) →正答</li> <li>100%から30%を引くと70%。 だから、9900円の70%のねだんを求めれば良いね。 (① <math>100 - 30 = 70</math>、<math>70\% = 0.7</math> または <math>1 - 0.3 = 0.7</math> ② <math>9900 \times 0.7 = 6930</math>)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇解き進めることができない児童に対して、何に困っているか聞き、書くように促すことで、どこにつまずいているか明確になるようにする。</li> <li>〇〇基準量、比較量、割合が問題文中の何にあたるかを、分からない児童と一緒に考えることで、分からない比較量を求めるための公式を想起することができるようにする。</li> <li>〇早く課題を解くことができた児童は、説明を書かせることで、割合の差を含む場面の比較量の求め方についての自分の考えをはっきりさせることができるようにする。</li> <li>〇「30%引き」の理解が難しい児童には、数直線を描くよう促すことで、比較量が基準量より小さくなること、基準量から30%(0.3)の割合を引くこと、または、基準量の70%(0.7)が比較量であることをつかむことができるようにする。</li> <li>〇様々な考えに触れたり、相手に自分の考えを説明したりすることで、自分の考えを明確にし、割合の差を含む場面の、比較量の求め方についての理解を深めることができるようにする。</li> <li>〇繰り返し説明する時間を設けることで、分からなかったところは聞いたり、教えてもらったりすることができるようにする。</li> <li>〇児童の発言やノートを確認することで、児童の考えや学習の進捗をつかみ、適切な支援ができるようにする。</li> <li>〇式の意味や「0.7」の理解が浅い児童から指名することで、代金の求め方についての理解を深めることができるようにする。</li> </ul>
23	<p>5.代金の求め方を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9900円の30%は2970円です。</li> <li>30%引きは、9900円から2970円を引くということです。 <math>9900 - 2970 = 6930</math>です。</li> <li>9900円の30%引きの代金は6930円です。</li> <li>30%引きした代金は9900円の70%になるので、<math>9900 \times 0.7</math>でも求めることができます。</li> </ul>	<p>〇児童の考えが分かるよう、児童のノートを映す。(書画カメラ)</p>
30	<p>6.割合の差を含んだ場合の、比較量を求める方法をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>30%引きの代金のように、割合の差を使って比べられる量を求めたいときは、</li> <li>① <u>30%のねだんを求めて、もとのねだんから引く。</u></li> <li>② <u>100%(1)から30%(0.3)を引いた残りの70%(0.7)のねだんを求める。</u></li> </ul>	<p>☆評価 割合の差を含む場面の、比較量の求め方について考え、説明している。【数学的な考え方】(発言・ノート・発表)</p>
35	<p>7.練習問題(教科書p64△6)に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇まとめの文章を、途中から児童が考えるようにすることで、学習を振り返り、割合の差を含んだ場合の、比較量の求め方を表現することができるようにする。</li> <li>〇まとめが思いつかない児童には、友達のまとめた言葉の中で納得したり、共感したりした言葉を書くよう促す。</li> <li>〇本時の学習を振り返ったり、基準量、割合を確認したりすることで、立式することができるようにする。</li> </ul>
40	<p>8.本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇分かったこと、思ったこと、もっとやってみたいことなど視点を与えることで、本時を振り返りやすくする。</li> </ul>
45		

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	概ね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
数学的な考え方	割合の差を含む場面の、比較量の求め方について考え、言葉や数直線などを使って説明している。	割合の差を含む場面の、比較量の求め方について考え、説明している。	問題文を読み直し、分かっていることを確認する。その上で、基準量、比較量、割合はそれぞれいくつか考え、分からない比較量を求めるための公式を想起できるように促す。 また、数直線を描き、30%は何か考えることで、求めたい代金が9900から2790を引いたものになること、または9900の割合が0.7になることに気付くことができるようにする。

(4) 授業の視点

- ・学級のだれとでも教え合ったり、説明し合ったりする場を設定したことは、課題の解を求めたり、理解を深めたりするために有効であったか。

8. 指導の実際と考察

(1) 学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもたせる工夫【研究の視点1】

①教材・学習課題との出会いの場の工夫

導入場面では、教師が購入したい服やその値札の写真を提示した。児童からは、「いくらですか。」や「これを買いたいんですか。」という声があがり、課題に対して興味をもったことが伺えた。提示する課題については、商品の値札を使い、「お買い得の商品」という児童の身近な言葉を用いたことで、児童から「これって、安くなるんだよね。」という、30%引きの考えにつながる発言を引き出すことができた。

②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化

問題文を読んだ後、分かること、分からないことをノートに書かせたことで、児童は自分の考えを整理していた。分かることを発表させることで、「9900円はもとにする量だ。」「1%は、全体を1とみたときの0.01だ。」など課題解決につながる言葉を共有することができた。また、分からないことを発表させることで、「30%引きをどうすれば求めることができるか分からない。」とねらいに迫る気付きが出てきた。既習事項である「30%」の意味理解が不十分であったため、児童が理解するための説明に時間をかけてしまったが、児童の言葉から本時のめあてをつくることができた。

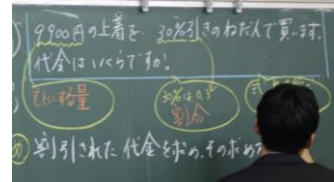


写真1：学習の見通しの共有

(2) 子ども自身の思考や表現に結びつくような場の工夫【研究の視点2】

①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫

個人思考で課題を解決することができた児童には、課題解決の仕方の説明を書いたり、他に方法がないか考えたりするように声かけをした。個人思考で課題解決まで至った児童は全体の1/3程度でそのうち、自分の考えの説明を書いている児童は一部であった。

課題解決に至らない児童には、困ったことや分からないことをメモするよう声かけをした。それによって、「30%の意味までは分かる。」「30%引きの式をどう書けばいいか分からない。」など、児童がどこに困り感をもっているかを把握することができ、個に応じた声かけをすることができた。

②思いや考えを表現する場の工夫

学習内容に応じて自由交流の時間を長く設けた。さらに、担任が机間指導しながら、児童同士をつないだり、担任が児童のつぶやきを拾ったりしたことで、児童は仲の良い友達だけでなく、いろいろな友達と説明し合っていた。

課題解決をすることができた児童は、困っている児童のメモを見てつまずきを考えたり、課題解決できた児童同士で説明し合ったりしていた。解決できずに困っている児童は、個人思考で書いたメモを見ることで、「ここが分からないから教えて。」と発言し、進んで友達に助言を求めていた。

③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定

学習内容をまとめる際、学習した言葉や数を使ってまとめの文章を書かせた。そのとき、スクリーンに映った数直線や板書の色分けしているところを参考にしながら書いていた。繰り返し取り組むことで、大事な言葉を使ってまとめを書くことに抵抗が無くなってきた。

本時では、適用題までいかなかったため、次時で学習した内容の適用題に取り組んだ。しかし、時間が経っているため、正答した児童は1/3程度であった。

本単元では、学習した内容の適用題に取り組んだ。どれだけ力がついたか、適用題をすることで、自己評価ができるようにした。それによって、分からなかった問題を自主学習で挑戦してきた児童がいた。また、適用題を終えて、分かったことや困ったこと、もっと知りたいこと等を本時の振り返りとして書かせた。多くの児童は、「実際の値引き商品の計算をしてみたい。」と書いていた。

### (3) ICTの効果的な活用について

本単元では、書画カメラ、タブレット、デジタル教科書を活用した。書画カメラやタブレットを用いて児童のノートを提示した。拡大したり、数直線を共有したりすることで、みんなで同じ課題に取り組むことができた。児童は、画像を繰り返し拡大したり縮小したりすることで操作に慣れ、自分の思いを伝えるために拡大する大きさを工夫するようになってきた。デジタル教科書では、バスケットボールのシュート数、成功数の割合を求めるとき、シュート数と成功数が並び替えられるアニメーション機能を使った。児童は、アニメーション機能の動きを見ることによって、比較量、基準量、割合の関係を理解し、数直線に必要なことを正確に描くことができた。

本時では、課題提示の場面で、上着や値札の写真を用意していたが、前の写真が消えてしまうので、課題の全体像をつかむことが難しかった。1枚の写真で全体像をつかめるようにするか、実物を用いたほうが課題をつかむために良かったのではないかと感じた。そのため、ICTは課題の実物を提示することが難しいときに活用するといいのではないかと感じた。

### (4) 成果と今後の課題

教材・学習課題との出会いの場の工夫について、生活に密着した出来事を問題文とすることは、児童の意欲を引き出すために有効であった。写真やイラストでも自分の経験と結びつけて想起することはできるが、実物を児童に提示することが可能であれば、実感を伴って課題を把握することができたと思う。

問題文を出した後に、一度ノートに分かったことや分からなかったことを書かせたことは、児童が自分の課題を明確にするために有効であった。本時の課題は、学習内容の定着が必要なので、振り返りをしたり、前時までの学習が分かる掲示をしたりして、前時までの学習の定着を確実に図ることが必要である。

個人思考を深める手立てや位置づけの工夫については、自分の考えをもつことができている児童がいたので、ヒントカードを使ったり、学習の見通しをもたせるとき課題解決に必要なことを共有したりすることで、課題に対する自分の考えをもつことができるようにする必要がある。

思いや考えを表現する場の工夫については、机間指導をしたり、学級全体の児童の様子をしっかりと見ることで、課題解決につながる児童の言葉を拾ったり、児童同士をつないだりすることが大切だと感じた。グループを固定せず、学級のだれとでも説明し合えるようにしたことで、児童はいろいろな友達の考えを知り、繰り返し説明する中で自分の考えに自信をもつことができた。

まとめによる振り返りの場の設定については、板書やノートから本時の学習を振り返って、自分の言葉でまとめさせることで、子どもたちのより深い理解につながると感じた。適用題が時間内に行えず、次時に適用題を行ったため、学習内容についての児童の意識が薄れてしまうと感じたので、これからは、学習した時間内に適用題まで進めるようにしたい。